

MSK

福岡工場、従業員が買収

太陽電池モジュール大手、MSK(東京・新宿、等原唯男社長)の福岡工場(福岡県大牟田市)の従業員らが同工場を買収して独立する。九州の地銀五行が出資するファンドと丸紅が買収資金などを提供する。MSKは昨年夏に中国企業が買収、合理化で福岡工場の操業を停止していた。ファンドなどは成長性のある太陽電池を九州の基幹産業に育成するには工場存続が必要と判断、独立支援を決めた。

太陽電池モジュール大手、MSK(東京・新宿、等原唯男社長)の福岡工場(福岡県大牟田市)の従業員らが同工場を買収して独立する。九州の地銀五行が出資するファンドと丸紅が買収資金などを提供する。MSKは昨年夏に中国企業が買収、合理化で福岡工場の操業を停止していた。ファンドなどは成長性のある太陽電池を九州の基幹産業に育成するには工場存続が必要と判断、独立支援を決めた。

事業承継会社として七月にMSKの田嶋教弘福岡工場長が設立した新会社「YOCASOL(ヨカソル)」(福岡県大牟田市)が十四日、MSKと事業譲渡契約を締結した。今月中に同工場の設備と従業員三十五人全員を引き継ぎ、田嶋氏が会長に、西堀考雄執行役員が社長に就任する。新会社は第三者割当増資を実施、中小企業基盤整備機構と西日本シティ銀行、肥後銀行、十八銀行、鹿児島銀行、筑邦銀行が出資する「九州事業継続ブリッジ投資事業有限責任組合(九州ブリッジファンド)」が八三%、丸紅が一四%、残りを従業員などが出資。同ファンドの出資案件としては第一号となる。事業買収の金額などは明らかにしていないが、操業再開に要する費用も含め、投資額は数十億円になるとみられる。

新会社は事業譲渡の続きが終わり次第、速やかに太陽電池モジュールの生産を再開する。来年までに百人程度の増員を予定。将来の株式公開を目指す。丸紅は事業パートナーとして原材料の仕入れから製品販売までを

支援、製品のほぼ全量を太陽電池の需要が急拡大しているドイツに輸出する計画だ。

MSK福岡工場は太陽光発電の基幹部品「セル」

を複合部品に加工する工程を手掛け、生産能力は最大八十メガワット。二〇〇四年九月に操業を開始したばかりだったが、MSKは親会社となった中国の大手太陽電池メーカー、尚徳太陽能電力(サンテック、江蘇省)にモジュール生産を一本化するため、福岡工場の操業を停止していた。